



# 救う技と倒す技 教え合いました

## ～消防局と連携し 研修会を開催～

昨年十二月十二日、組合会議室において、高崎市等広域消防局とたかさき消防共同指令センターの職員を講師に迎え、本組合職員を対象とした緊急時通報訓練を実施しました。訓練では通信デモ機を使用し、実際の通報を想定して状況報告や負傷者の状態説明、位置情報の伝達方法を体験しました。

過去の事故事例を取り上げることで、現場で起り得る事態をリアルに感じながら学ぶことができました。

特に山での事故では「どこで発生したか」を正確に伝えることが大きな課題ですが、スマートフォンのGPS機能を活用し位置情報を伝えることが、今後の対応に有効であることが確認できました。

### ◆GPSの位置情報は 有効な手段



応急対応の方法も紹介されました。実際の場面をイメージしながら体験でき、非常に実践的な学びとなりました。

### ◆今度は組合職員が伐倒指導

後日、今度は本組合職員が講師となり、業務でチェンソーを使用する消防局職員を対象に、「伐倒訓練」を実施しました。屋外で行われた研修では、ソーチェーンの目立てや基本的な操作方法について、座学と実技を交えて指導が行われました。



◆チエンソーの切れ味に驚き

「チエンソーのバーが挟まれない切り方」等の質問に応じる形で、安全な作業手順を解説。目立ての終わっている本組合のチエンソーを使った伐倒体験では、その切れ味に、参加者全員が驚いていました。

今回の訓練を通じ、消防機関との連携の重要性を実感するとともに、職員一人ひとりの危機対応力向上につなぎました。今後も継続して訓練を行い、現場での安全確保に努めてまいります。

### ◆連携を通じ対応力向上